

第6次飯能市総合振興計画基本構想（素案）に対する意見募集の結果について

- 実施期間 令和7年9月1日(月)から令和7年9月30日(火)まで
- 閲覧場所 市役所本庁舎（3階）市政資料コーナー、飯能駅サービスコーナー、市民活動センター、各地区行政センター、市立図書館、飯能市ホームページ
- 実施結果 11件（電子申請フォーム5件、意見箱への投函4件、メール提出2件）

No.	地区・年代	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	加治地区・40代	<p>2035年の目標人口（将来人口）について</p> <p>市全体の人口に加え、「市街地・山間部」または「人口集中地区（DID）とそれ以外」の目標数値を定めたほうがより精度が高くなるのではないかでしょうか。人口集中地区の2035年の目標人口はおおむね現状維持とし、令和7年（2025年）1月時点の人口が妥当だと考えます。</p> <p>P27 都市回廊区間と人の流れのイメージについて</p> <p>他市・都県からの流れの矢印（計5本）は、JR八高線・県道30号線・日高市方面／圏央道狭山日高IC・狭山市方面／国道299号線・西武池袋線・所沢市方面／JR八高線・八王子市方面・圏央道青梅IC／青梅市方面を示しているように理解しました。現状、特に観光客の利用が多いルートは「国道299号線・西武池袋線・所沢市方面」だと思われるので、「国道299号線」と「西武池袋線・所沢方面」の2つに増やしたほうが視覚的に分かりやすいかと思います。例えば、公園名を下に動かし、右下に矢印を1本追加してはいかがでしょうか。「西武池袋線・所沢方面」のみ太くするなど、メリハリをつけると市が重視している人の流動が分かるかと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>本市が目指すまちづくりの方針、基本的な考え方を定めることを目的とする総合振興計画として、市全体を捉えた将来人口を設定することとしております。一方で、市街地・山間部それぞれ性質の異なる地域を持つ飯能市において、その視座は重要であると考えており、2035年までの市街地・山間部それぞれの将来人口推計については「飯能市人口ビジョン」にてお示ししています。将来を見据えた地域の在り方や施策の検討に当たって参考にしてまいります。</p> <p>人の流れのイメージについてはお見込みのとおりです。ご提案を参考に反映させていただきます。</p>
2	加治地区・50代	<p>計画全体については、前向きな良い計画と捉えております。</p> <p>出来れば、この中に以下の点についての方向性を追加いただければと思いました。</p> <p>1 近年、話題になっていました阿須丘陵のサッカー場についてですが今更無くせとは思いませんので、飯能市の活力になればとの思いから、エルフエンのホームスタジアムとして利活用出来ないでしょうか？毎回、ホームゲームを熊谷で行っています。寂しさを感じております。現状から客席数を増やして集客力を伸ばせないでしょうか？</p> <p>2 合わせて、駿河台大学とこのスタジアムに利用できる駅の建設を目指してはどうかと思います。</p> <p>当然、もともと利用しているボカジュニアの協力も連携できれば、さいたま市に次ぐサッカー都市としても飛躍出来るのではないかでしょうか。ホッケーの街でもありますが、多種多様なスポーツで集客力と人口増を目指すのもありなのでしょうか？</p> <p>3 飯能市は、災害も少なく地盤の良さもありますので、アピールの仕方次第では人口増のチャンスは大いに有ると思います。</p> <p>4 それと、待機児童の数についても統計的な数字では無しと聞きますが、実際の現場では保育士の不足を感じているのでその対策も盛り込むべきと感じます。</p> <p>実際に、待機児童無しの触れ込みで市内に家を購入したにも関わらず、入園できず職を辞したとの方も聞いております。</p> <p>山間部では足りていても、市街地では足りていないのでは意味がないです。是非、対策を盛り込んで欲しいです。</p> <p>これが、総合振興計画の意見に見合っているかわかりませんが、このような箇所も盛り込めば、良い計画になると感じておりますのでご検討をいただければ嬉しい限りです。</p> <p>よろしく、ご検討をお願い致します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>1・2につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>3につきましては、現在も市ホームページにおいて「強固な地盤で地震に強いまち 飯能」というトピックで地盤の強さ、災害リスクの低さをPRしており、積極的な企業誘致等を進めています。引き続き本市の強みとしてアピールしてまいります。</p> <p>4につきましては、施策の大綱の「基本目標2 ひとづくり」の基本的な考え方（p.23）にある「切れ目のない子育て支援」の実現に向けて、前期基本計画の分野別の施策において、「保育環境・幼児教育環境の整備」を位置付け、取り組んでまいります。</p>

No.	地区・年代	意見の概要	意見に対する市の考え方
3	加治地区・30代	<p>第6次飯能市総合振興計画基本構想（素案）において「関係人口の創出」がまちの活力維持・発展の鍵として位置づけられている点に強く共感いたします。人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の持続可能性を確保するためには、定住人口のみならず、地域外から継続的に関与する人々の存在が不可欠です。関係人口という概念は、まちづくりの担い手を拡張する可能性を秘めており、飯能市の未来にとって重要な柱となると考えます。</p> <p>一方で、計画素案において「交流人口」と「関係人口」の違いが十分に整理されていない印象を受けました。両者は似て非なるものであり、それぞれに適した施策設計が求められます。交流人口は主に観光やイベントなどを通じて一時的に地域を訪れる方々を指し、地域資源の消費者としての側面が強いのに対し、関係人口は地域に対して継続的かつ能動的に関与する意思を持つ人々であり、まちづくりの協働者としての性質を持ちます。この違いを踏まえた上で、関係人口の創出・育成には、以下のような視点が重要だと考えます。</p> <p>まず、関係人口が地域と「関わり続ける」ための仕組みづくりが必要です。観光やイベントをきっかけに飯能市に興味を持った方々が、地域活動や市民団体に参加できるような導線を整えることで、交流人口から関係人口への移行が促進されます。例えば、地域課題に関するワークショップやオンラインフォーラム、ボランティア活動への参加機会の提供などが考えられます。</p> <p>次に、関係人口の「可視化」と「評価」の仕組みも重要です。関係人口は住民基本台帳に記載されないため、行政施策の対象として捉えにくい側面があります。しかし、ふるさと納税の寄付者、地域イベントのリピーター、SNSで地域情報を発信する人々など、様々な形で地域に貢献している関係人口を把握し、施策の成果として評価する仕組みが必要です。これにより、関係人口の存在が市民や行政にとって「見える化」され、さらなる施策の改善にもつながります。</p> <p>また、関係人口の創出は、地域住民との信頼関係の構築が前提となります。市民が外部の人々を「仲間」として受け入れ、共に地域を育っていくという意識を持てるよう、住民向けの啓発や対話の場の設置も重要です。関係人口の受け入れが一部の団体や事業者に限定されるのではなく、地域全体で共有される価値観となるよう、行政が橋渡し役を果たすことを期待します。</p> <p>さらに、関係人口の多様性にも注目すべきです。都市部に住む若者、子育て世代、退職後のシニア層、外国人など、関係人口の属性は多岐にわたります。それぞれのニーズや関心に応じた関与の仕方を設計することで、より広範な層とのつながりが可能になります。例えば、自然体験や農業体験を通じた関係人口の創出、空き家活用による二地域居住の促進、オンラインでの地域応援コミュニティの形成など、多様なアプローチが考えられます。</p> <p>最後に、関係人口の創出は単なる「人の流れの拡大」ではなく、「地域との関係性の深化」であるという視点が重要だと考えます。飯能市が「応援したくなるまち」「関わり続けたくなるまち」として外部の人々に認識されるためには、地域の魅力を発信するだけでなく、地域課題を共有し、共に解決していく姿勢が求められます。そのためには、行政の情報発信の透明性、参加機会の公平性、そして市民との協働の姿勢が不可欠です。</p> <p>以上のような観点から、関係人口と交流人口の違いを明確にした上で、関係人口の創出・育成に向けた具体的な施策の充実を強く希望いたします。飯能市が多様な人々とつながり、共に未来を築いていくまちとなることを心より願っております。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「交流人口」と「関係人口」の意味合いや創出に向けたアプローチがそれぞれ異なる点はご指摘のとおりです。市民の方々がイメージしやすいよう、前期基本計画の中で表現方法を検討してまいります。</p> <p>また、関係人口の創出に向けた仕組みづくりや定量化（及び評価）、意識の浸透等、課題として挙げていただきました点は、いずれもご意見のとおりであると考えます。</p> <p>関係人口の創出は、今回掲げている将来都市像に大きく関わってくる内容であり、人口減少を克服し、持続可能なまちづくりを進めいく上で欠かせない取組であると考えておりますので、継続性や実効性を持った仕組みとなるよう、今回のご提言を今後の取組フェーズの検討に当たっての視点とさせていただきます。</p>
4	加治地区・30代	<p>飯能市が策定を進めている第6次総合振興計画（素案）において、「未来を見据えた持続可能な仕組みをつくる」という基本姿勢が示されていること（p.20）に、住民の一人として大いに期待を寄せています。人口減少や高齢化が進行する中で、限られた財源をいかに有効に活用し、将来世代に過度な負担を残さない財政運営を実現するかは、自治体の根幹に関わる重要な課題です。</p> <p>持続可能な財政運営を実現するためには、単なる歳出削減や歳入確保にとどまらず、公共資産の戦略的な管理、市民との協働による意思決定、そして財政情報の透明性向上といった多面的な取り組みが必要です。特に、公共施設の老朽化やインフラの更新に伴う財政負担は今後ますます増加することが予想されるため、長期的な視点に立った資産管理の強化が不可欠です。施設のライフサイクルコストを踏まえた修繕・更新計画を策定し、住民に分かりやすく説明することで、合意形成と費用負担への理解が進むと考えます。</p> <p>また、財政運営に関する情報の「見える化」も重要です。市ホームページ上で掲載されている財政のページをみても、難しい用語が多く、市がどのような財政状況におかれているかを把握することが困難です。市民が財政の現状や課題を正しく理解し、地域の優先課題について主体的に考えるためには、予算や決算の内容をわかりやすく整理し、定期的に説明の機会を設けることが求められます。市民説明会やワークショップの開催、若年層や子育て世代の声を反映する仕組みの導入など、双方向の対話を通じた財政運営が、信頼と協働の基盤を築くとともに、持続可能性の担保につながると考えます。</p> <p>さらに、財政健全化に向けた定量的な目標設定と進捗管理も欠かせません。実質公債費比率や将来負担比率、基金残高などの財政指標について、目標値を明示し、定期的に達成状況を検証することで、計画の実効性が高まります。外部有識者の意見を取り入れる仕組みや、事業評価の結果を市民に共有する体制の整備も、財政運営の透明性と説明責任を果たす上で有効です。</p> <p>飯能市が目指す「ずっと暮らしたいまち」の実現には、財政の健全性と市民との協働が不可欠です。持続可能な財政運営とは、単なる数字の管理ではなく、市民の暮らしを守り、未来を育てる仕組みづくりであると捉えています。第6次総合振興計画において、財政運営の透明性と市民参加の仕組みをより明確に位置づけていただくことを強く希望します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご意見にあるとおり、持続可能な財政運営は、市民の暮らしを守り、そして、未来を育てる仕組みづくりであると捉えております。</p> <p>まちづくりの基本姿勢（3）に示す「市政や地域づくりに参画できる仕組みづくり」を進める上でも、市の財政状況を市民の方々等に十分に理解していただくことは必要不可欠であると認識しておりますので、ご意見を参考に表現を整理するとともに、分かりやすい情報提供や対話の場での意見交換などを進めてまいります。</p> <p>また、長期的な視点に立った資産管理については「公共施設等総合管理計画」による管理・実行、財政健全化に向けた計画・管理は「緊急財政対策プラン」の実行や中長期財政計画・財政見通しの作成等により、適正かつ持続可能な財政運営の確立を図ってまいります。</p> <p>以上の内容を実現するため、前期基本計画の分野別の施策において、「市民参画・協働の推進」「健全な財政運営」を位置付け、取り組んでまいります。</p>
5	加治地区・30代	<p>第6次飯能市総合振興計画基本構想（素案）の第1部第4章「第5次総合振興計画の達成状況と市民意向」に関して、以下の点について提案があります。</p> <p>第5次総合振興計画で掲げられていたシンボルプロジェクトの達成状況について、本章では言及がありませんでした。これらのプロジェクトは市民の関心も高く、目標人口を実現する上で象徴的位置づけであったことから、その進捗状況や成果、未達成の要因などを具体的かつ詳細に記載することで、課題の明確化や今後の計画への反映が可能になると考えます。</p> <p>加えて、これらのシンボルプロジェクトが第6次計画においては、個別施策としての継承ではなく、より広範な施策体系の中に“昇華”される形で位置づけられている点を明記することで、第5次計画との連続性や施策の一貫性を市民に示すことができます。これは、計画の信頼性や市民の理解・参画を促進する上でも重要であり、計画全体の説得力を高めるものと考えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今回は第1部第4章「第5次総合振興計画の達成状況と市民意向」に整理する内容をもって、第5章「これからまちづくりに求められる視点」において、課題を明記させていただいております。</p> <p>なお、ご提案の内容を参考に、第5次総合振興計画で掲げられたシンボルプロジェクトの達成状況については、資料編にまとめてまいります。</p>

No.	地区・年代	意見の概要	意見に対する市の考え方
6	飯能地区・70代	<p>将来人口80,000人で行くべきです。</p> <p>現在の人口より低い74,300人では人口減らす基本構想ですと、</p> <p>基本計画の段階で減少に合わせた計画になってしまう恐れがあります。</p> <p>水道など県水まで導入したり、下水にしても一日最大33,800立方メートルまで処理できるよう設備されております。（R6年現在では23,210立方メートル）</p> <p>上下水道の設備をみても、今までの80,000人を目指さなくては、無駄な設備になってしまいます。</p> <p>少子・高齢化対策に全力で施策を考え、人口を増加させようとする基本構想・計画にしていただきたいと期待いたします。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>前提として、今回の計画では本市の人口規模が縮小することは避けられないものと捉えております。そのような中でも、人口減少に起因する様々な問題をできる限り小さくするため、人口減少のスピードを緩和させるとともに、人口が減少したとしても飯能市に暮らしている人の生活の質を高めることを人口施策の方向性として掲げています。</p> <p>よって、目標人口を掲げることなく、将来人口（人口フレーム）を設定する方向性といたしました。</p> <p>この人口フレームの設定に合わせて、人口規模に見合った施設・設備に更新していくことが今後求められます。それに当たっては、利便性や安全性、効率性を踏まえながら、施設総量の最適化、ストックマネジメントの考え方などを念頭に、安定的で健全な財政運営を施策に掲げて実行してまいります。</p>
7	飯能地区・40代	<p>○p.7 (4) 合計特殊出生率と出生数 全ての年について、グラフ内に数値を示してほしい。（例えばR3、R5は書いてあるが、R4がわからないです…）</p> <p>○合計特殊出生率と出生数が全国、県平均をずっと（H12～）下回っている（例：R5、市：1.01、県：1.14、国：1.20）とは思いもよりませんでした。「自然豊かな住環境で伸び伸び子育て」というイメージがあり、埼玉県内でも上位の出生数だろうと思っていました。「データは語る」大事です。</p> <p>ところで、p.13⑥「持続的なまちづくりを進めるために必要なこと」ダントツ1位が「結婚・出産・子育ての希望をかなえるための施策を充実させる」です。このための施策は何か？とみていくと、p.22、23「施策の大綱」で基本目標2『ひとつづくり』「切れ目のない子育て支援」などと、総合的な全く具体的な施策が書かれていません。例えば市内唯一の産婦人科は8月以降休診となっています。産婦人科の誘致などは市民が求めているのではないでしょうか？</p> <p>他の分野についても同様で、市長選があったので、誰が市長になっても良いような当たり障りのないものになっています。</p> <p>各課の課長職がもっと頑張り、「飯能を創る」という意気込み・覇気の感じられるものを期待します。</p> <p>具体的な施策がないと市民は？です。近隣市の計画を参考に、改善してください。</p> <p>この計画では安心して飯能市に住めません。市政任せられません。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご指摘を踏まえて、グラフについて各年の数値を表示します。</p> <p>具体的な施策については、前期基本計画に記載させていただきます。</p>
8	飯能地区・60代	<p>○決算の成果書のように、5次総と比べて6次総は“こう違います”的記述があれば良かったかもしれません。</p> <p>例 ①- ②- ③-</p> <p>○近隣ではレインボープランが具現化しつつあるので（広報かわごえ10月号より）、6次総の後半はダイア5市の合併も視野に入れた方が良いかもしれません。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>本計画は今後の本市が目指すまちづくりの方針、基本的な考え方を示すものとし、前計画との対比という形での記載は行いませんが、第6次総合振興計画の説明・周知に当たっては、ご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>広域行政の必要性・有効性につきましては、認識を持っているところであり、施策の大綱の「基本目標5 つながりづくり」の基本的な考え方（p.23）にある「持続可能なまち」の実現に向けて、前期基本計画の分野別の施策において、「総合力を生かす公民連携・広域行政の推進」を位置付け、取り組んでまいります。</p>
9	加治地区・70代	<p>1、街中の空き家を徹底的に調査し、取り壊し、リフォーム転売、税金を重くして早急に売却を促す。</p> <p>2、介護施設への税金投入ではなく、自助努力で100歳まで健康で過ごせる交流の場、体操の場を作る。 ↓</p> <p>3、各自治会の会館や交流の場へもっと補助して施設を充実させる。</p> <p>4、「住むのは街中、遊びは森林」として、山奥や遠隔地への住宅の拡散を抑制する。不動産業者へ山奥の開発の制限を設ける。</p> <p>5、税収を生まない年齢層（高齢者）の流入を抑制し、若い年収の高い層の流入を図る。</p> <p>6、市会議員を“65歳定年”として、古いやり方をやめさせる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>1・2・3・5・6につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>4につきましては、土地利用構想（p.26）の「土地利用の基本方針（1）地域の特性に応じた、利便性を高める土地利用」にお示しする「コンパクト・プラス・ネットワークの考えに基づく持続可能なまちづくりにつながる効果的な土地利用」を進めていくことを掲げております。</p>

No.	地区・年代	意見の概要	意見に対する市の考え方
10	飯能地区・70代	<p><第1部序論> 第5章の（1）から（8）までの項目に「飯能の歴史・文化を大切にする」という視点が抜けています。</p> <p><第2部基本構想> 第3章施策の大綱で23ページ上段 基本目標1の基本的な考え方 1行目「水と緑の恵まれた自然環境や」の後に「歴史・文化の地域資源・・・」の赤字文字を加筆していただきたい。 その文言の文脈で、2行目「まちづくりを進めます。また、多様な・・・」を「まちづくりを進めると共に、多様な・・・」にしてはいかがでしょうか？</p> <p>第5章の2 区分別の土地利用の方向 (1) 市街地ゾーン 3行目 「居心地が良く歩きたくなる歴史と文化が香る環境の整備・・・」の赤字文字を加筆していただきたい。 (4) 森林ゾーン 1行目にあります公益的機能に「生物多様性を高める機能」を加えていただきたい。</p> <p>第5章の3 戰略的な土地利用の方向 (2) 戰略的活性化エリア 1行目「地域の活性化や歴史・文化を活かした新たな魅力の・・・」の赤字文字を加筆していただきたい。</p> <p>以上、よろしくお願いします。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご提案を参考に表現を整理させていただきます。</p>
11	原市場地区・60代	<p>市役所の皆さんが高い意を込めて作られていることだと思います。 その中で、一点引っかかる箇所がございます。 まちづくりの基本姿勢についてです。 (1) 人口減少を克服する (2) 豊かな自然の価値を未来に継承する (3) 未来を見据えた持続可能な仕組みをつくる この順番に記載されており、普通に読むと (1) 人口減少を克服する が最優先事項のように読み取れてしまう可能性が多くなってしまう気がします。 その結果(2)・(3)のウエイトが相対的に低くなる懸念はないでしょうか？ (2)・(3)をすすめていくことの結果として(1)に繋がる、という建付けもありかと思料いたします。 将来都市像・施策の大綱で語られている内容も(2)・(3)に該当する項目かと。 若干気になりましたので意見させて頂きます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 3つのまちづくりの基本姿勢の順序につきましては、前後（第Ⅰ部 第5章「これからのまちづくりに求められる視点」及び第Ⅱ部第2章「将来都市像」）の内容の順序との整合性を意識して構成しております。 なお、表記順を優先順としてはおらず、3つの基本姿勢はいずれも横並びで重要であると認識しております。</p>